

横手市議会定例会
市長所信説明

令和7年12月

(令和7年11月25日 告示)

横手市

第2次横手市総合計画

みんなの力で 未来を拓く 人と地域が^{ひら} ^{かがや} 燦くまち よこて

後期基本計画 政策・施策

政策1 伸び伸び子育てできる環境と、みんなが健康に暮らせるまちづくりを進めます
【健康福祉】

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 【施策 1-1】子育て支援の充実 | 【施策 1-4】障がい者（児）福祉の充実 |
| 【施策 1-2】健康な心と体づくりの推進 | 【施策 1-5】低所得者福祉の充実 |
| 【施策 1-3】健康でいきいきとした高齢社会の推進 | 【施策 1-6】福祉を支える人材の確保と育成 |

政策2 学びの充実とスポーツ・芸術文化の振興により、生きる力と豊かな心を育みます
【教育文化】

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 【施策 2-1】横手を愛する心と生きる力を育む学校教育の充実 | 【施策 2-3】元気なまちを築く生涯スポーツの促進 |
| 【施策 2-2】安全で安心して学べる教育環境の整備 | 【施策 2-4】心を豊かにする生涯学習の推進 |
| | 【施策 2-5】よこての伝統文化の継承と再発見 |

政策3 豊かな自然環境を守り、安心して暮らすことのできるまちづくりを進めます
【生活環境】

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| 【施策 3-1】安心して暮らすことのできるまちづくりの推進 | 【施策 3-3】災害に強いまちづくりの推進 |
| 【施策 3-2】美しい自然環境と快適な生活環境の保全 | 【施策 3-4】循環型社会の一層の推進 |
| | 【施策 3-5】地球温暖化対策の推進 |

政策4 魅力ある地域資源を活用し、人を呼び、仕事を生み出す産業の振興を図ります
【産業振興】

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 【施策 4-1】魅力ある農林業の振興 | 【施策 4-4】観光・物産資源の発掘と発信 |
| 【施策 4-2】活気ある商業の振興 | 【施策 4-5】企業誘致の推進、企業留置と雇用対策 |
| 【施策 4-3】活力ある工業の振興 | |

政策5 暮らしを支える都市基盤を強化し、便利で快適なまちづくりを進めます
【建設交通】

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 【施策 5-1】雪国の快適な暮らしの実現 | 【施策 5-5】安全で安定した水道水の供給と生活排水の適正処理 |
| 【施策 5-2】快適な移動空間の実現 | 【施策 5-6】市民がくつろげる公共空間の整備 |
| 【施策 5-3】市民が利用しやすい公共交通の充実 | |
| 【施策 5-4】地域拠点整備による市街地の活性化 | |

政策6 やさしさと笑顔があふれる市民が主役の地域づくりを進めます
【市民協働】

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| 【施策 6-1】市民の主体的な活動の支援と地域づくり活動の充実 | 【施策 6-3】情報を共有する環境の整備 |
| 【施策 6-2】男女が尊重し合う社会づくり | 【施策 6-4】市内外との交流連携の推進 |

政策7 横手を思い、市民の思いを実現させる創造的な行政経営を進めます
【行政経営】

- | |
|--------------------------------|
| 【施策 7-1】市民ニーズに対応した成果重視の行政運営の推進 |
| 【施策 7-2】財源確保と効率的・効果的な財政運営の推進 |
| 【施策 7-3】戦略的・計画的な人材育成と能力開発の充実 |

目 次

1. はじめに	1
2. 令和7年度事業等の進捗状況について	6
(1) 農業振興について	6
(2) 市民生活における物価高騰対策について	8
(3) 物価高騰等の影響を受ける事業者支援について	10
(4) 横手市立体育館について	11
(5) 横手駅周辺整備について	12
(6) シン・十文字拠点基本構想について	12
(7) 十文字西スポーツセンターリニューアルオープンについて	13
(8) 公共温泉施設の廃止について	14
3. 新たな施策等への取り組みについて	15
(1) 令和8年度予算編成方針について	15
(2) 第3次横手市総合計画前期基本計画と組織機構再編について	16
4. 補正予算について	18
5. おわりに	18
※行政一般報告編	20

令和7年12月横手市議会定例会の開会にあたり、市政運営に関する基本的な考えとして所信を述べさせていただくとともに、当面する市政の重要課題についてご説明申し上げ、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. はじめに

今年度は春先から全国各地でクマの出没が多発し、当市を含めた各地で人身被害が発生しております。クマ被害によりお亡くなりになられた方々へお悔やみを申し上げるとともに、お怪我をされた方々にもお見舞いを申し上げます。

県内におけるクマの目撃件数は10月に入り急増し、当市においても、特に住宅地や市街地での出没が多発したことを受け、10月9日に「横手市ツキノワグマ対策会議」を設置し、全庁的な対応を実施いたしました。市では、広報車によるパトロールや目撃情報のあった地域にチラシを配布するなどの警戒を行っておりましたが、10月20日に平鹿地域において人身被害が発生してしまったことに対しましては、改めて被害に遭われた方へお見舞いを申し上げます。

その後も市街地で目撃情報が相次ぎ、10月22日には、横手市本町地内の河川敷に居座るクマに対して、秋田県で初となる緊急銃

猟を実施し、無事3頭を駆除いたしました。また、県内で相次ぐ人身被害の発生を受け、県と陸上自衛隊は11月5日にクマ対策に係る協定を締結し、県内での支援活動が行われました。当市におきましても、派遣を要請し、11月12日から箱わなの運搬や設置などの後方支援を行っていただきました。

これからクマは冬眠期に入りますが、昨年は市内において降雪期以降に住宅地付近で出沒した事例もあることから、今後も、警察や猟友会、県、教育委員会など関係機関と連携し、クマなどの有害鳥獣による被害防止に引き続き努め、市民の皆様の安全を最優先に、臆することなく毅然とした対応を取ってまいります。

さて、この度の市議会議員選挙におきまして、当選された議員の皆様にご改めてお祝い申し上げますとともに、市政のさらなる発展に向けたご活躍を心よりご期待申し上げます次第であります。

同じく実施されました市長選挙において、私も多くの市民の皆様からのご支持を賜り、引き続き当市のかじ取り役を担うこととなりました。これまでの3期12年、ひたすら横手市発展のため、市民の皆様のために全身全霊で駆け抜けてきた実績への評価と、今後の市政運営に対しての期待を多くの皆様からいただいたものと受け止めております。これからの4年間も市民の皆様への負託に応え、愛する横手のために強い使命感を持って市政を推進してまいります。

4期目の市政運営にあたりましては、次の4つを政策の柱とし、市民の皆様や議員の皆様、そして職員と心を一つにして取り組んでまいり所存であります。

1つ目の柱といたしましては、「将来を担うこどもたち、若者、子育て世代に選ばれるまちづくり」であります。昨年オープンした横手市生涯学習館^{あ お - な}A o - n a は、中高生をはじめ若者や親子連れが集い、賑わいを生む場となっております。

また、令和8年7月にグランドオープンを予定している横手市立体育館では、スポーツのみならず各種興行やイベントが開催され、賑わいの創出や広域交流による地域活性化など、新たな人の流れを生み出すものと確信しております。

今後も交流人口の拡大を目指すとともに、若者の語らいの場や季節を問わずこどもたちが遊べる空間の創出によって、若者や子育て世代から「住みたい街」として選んでいただけるよう取り組んでまいります。

2つ目の政策の柱として、「食料安全保障強化の発信と持続可能な農林業を構築し、日本一の複合農業産地を目指す」ことを掲げております。

よこて農業創生大学事業による新規就農者の育成や支援を継続するとともに、新たに兼業農家の育成にも取り組むなど、当市の基幹

産業である農業の担い手不足への対応を進めてまいります。

また、人口減少・少子高齢化においても持続可能な農業経営を実現するためには、生産性の向上や省力化を図ることが不可欠であるものと捉えております。

今後も小規模農業従事者や新規就農者への支援に加え、生産性向上やスマート農業の推進などにより、日本の食料基地の一つとして、農業算出額のさらなる拡大を図り、日本一の複合農業産地を目指す取り組みを農家の皆様、関係者の皆様とともに進めてまいります。

3つ目の柱である「産業の育成・強化と雇用の創出」では、教育委員会と連携し、中高生に地元産業への関心を深めてもらい、地元就職率の向上を図ってまいります。

これまで、地域産業の支援や粘り強い企業誘致活動により多くの雇用を創出し、職業選択の多様性や雇用の場の確保、若い世代の地元定着に尽力してまいりました。この流れを止めることがないよう、柳田工業団地の拡張整備を進めるなど、新たな企業誘致の受け皿となる環境を整えてまいります。

さらに、横手駅東口再開発により農業と商業の中核を担う団体が一拠点に集まる強みを生かし、農工商の連携を一層拡大することで、産業の振興と雇用創出を推進してまいります。

最後に「安全と安心に支えられた文化都市の構築」を4つ目の柱としております。これまでの3期12年にわたり、横手市の地政学的優位性をさらに向上させるべく、横手北スマートインターチェンジの設置や秋田自動車道四車線化の整備促進、国道・県道等の拡幅整備などの実現に向け、精力的に取り組んでまいりました。

4期目におきましても、秋田自動車道や国道13号横手北道路の四車線化の早期実現に向けた取り組みなど、社会基盤の強化を通じて、人流・物流環境の向上を図ってまいります。

また、市民の皆様の安全と安心に資する取り組みとして、市立横手病院及び大森病院の経営改善を進め、両病院が地域密着型医療を提供できる体制を構築してまいります。

これらの安全・安心を土台とし、各地域に根付くお祭りなどの伝統行事の歴史的価値を継承し、さらには市民の皆様が文化的な活動ができる場を創出するなどにより、魅力あるまちづくりを進めてまいります。

以上の4つの政策を推し進めることにより、50年後、さらには100年後においても、横手市が多くの人々を引き付ける地域価値の創造が実現するものと捉えております。経済的な躍進と文化的な発展を目指し、リアルな田園都市である横手市にデジタルな要素を融合させる地方創生の取り組みを進めてまいります。

先般、一般社団法人公民連携推進機構主催による「第3回公民連携推進セミナー地方創生^{あわーど}AWARD」が開催され、増田まんが美術館のリノベーションの取り組みが「地域資源を活用した来訪者増加部門」においてグランプリを受賞いたしました。

地方創生AWARDは、地方独自の先進的な取り組みを参考事例として紹介する趣旨により開催されたものであり、当市が進めてきた地方創生の取り組みを全国にPRできた良い機会であったと捉えており、引き続き様々な場面で当市の魅力を積極的に発信してまいります。

2. 令和7年度事業等の進捗状況について

(1) 農業振興について

農林水産省が公表した10月25日現在の県南のコメの作況単収指数は「103」となっております。梅雨入り後の渇水や猛暑による品質への懸念もありましたが、JA秋田ふるさと管内の一等米比率は93.9パーセントで推移しており、昨年を上回る水準となっております。

また、本年産のあきたこまち60キログラムあたりの概算金は、現行の概算金方式となった2015年産以降で最高額の3万円となり、昨年から1万1,200円引き上げられました。生産コストが

上昇するなかでの大幅な引き上げは、農業者の所得の確保や生産意欲の向上にとどまらず、後継者問題や就農を考えている若者の動機付けにもつながるものと期待しております。当市におきましては、引き続きJAをはじめとする農業関係機関と協力し、農業者の皆様が安心して米作りに取り組めるよう努めてまいります。一方で、コメの小売価格の高止まりが続くなか、消費者のコメ離れも危惧されており、生産者と消費者双方が納得できる価格形成を国に対し求めてまいります。

次に園芸作物では、主力品目のスイカは、6月下旬頃からの長期にわたる異常な高温と干ばつの影響により、「つる枯れ」や「うるみ果」などの品質低下が散見されましたが、JAの出荷量は前年比121パーセントとなり、販売額も約13億円と昨年より2億円ほど増額いたしました。

ホップは、春先から初夏にかけて干ばつに見舞われましたが、幸いにも病害虫の発生が少なく、収穫直前の雨で持ち直したことから、収量、販売額とも昨年を上回ったと伺っております。

その他の品目も高温等の影響で生育が緩慢でしたが、灌水作業など農業者の皆様の懸命な努力により、いずれの品目でも猛暑を乗り越え、概ね計画通りの出荷を達成する見込みとなりました。

果樹では、ぶどうは6月から高温と少雨の影響により、シャイ

ンマスカットで小粒果や小房傾向が見られましたが、その他の品種は色づきも良く高糖度に仕上がり、作柄は概ね良好と伺っております。りんごについては、高温少雨の影響で早生種や中生種に小玉傾向が見られ、JAの集荷量も昨年を下回りました。また、晩生種^{ばんせい}の主力品種「ふじ」も同様に小玉傾向ではありますが、例年以上に品質が良く、販売単価も高値傾向にあることから、今後の販売に大いに期待しているところであります。

なお、労働力不足解消と人材確保のため、JAでは昨年度からりんご選果場において、出荷最盛期直前の9月から翌年1月まで、インドネシア出身の外国人就労者を雇用しており、今年度は3名を増員し計7名を雇用しております。さらに、市内の農業法人において、農繁期に外国人就労者2名を雇用した事例なども踏まえ、市としても農業労働力確保策を推進してまいります。

物価高騰による資材費の高止まりや異常気象による影響など、農業経営にとって厳しい状況が続いておりますが、今後も複合農業を推進し、国や県、関係機関と連携を図りながら、農業者の皆様が安心して営農を継続できるよう支援してまいります。

(2)市民生活における物価高騰対策について

食料品やエネルギー価格の高止まりが続くなかで、市民生活に

おける物価高騰の影響を緩和し、地域経済を下支えすることを目的として実施しております「よこて市民応援商品券事業」につきましては、本年4月1日から10月末までの対象となる6万7,201名の方々へ商品券を送付いたしました。引き続き12月15日までに転入や出生により、新たに当市の住民となられた方についても、順次発送してまいります。

10月末までの換金実績は発行数の約72パーセントに達しており、物価高騰下における市民生活の一助となったものと捉えております。なお、商品券の使用期限は12月末までとなっておりますので、お手元に未使用の券がある方は期間内にご利用くださいますようお願いいたします。

また、定額減税に係る不足額給付金につきましては、8月下旬から順次受付を開始し、申請を受け付けた全ての方への給付を完了いたしました。対象者9,823名のうち9,681名から申請があり、給付率は98.5パーセントとなっております。

給付にあたっては、公金受取口座を活用したプッシュ型給付により申請手続きの簡素化を図るなど、国の制度改正に迅速に対応し、対象となる市民の皆様には確実に円滑に支援をお届けできたものと認識しております。マイナンバーカードを活用した公金受取口座を登録いただくことで、他の給付金等の手続きにおいても口座情報の

記載や通帳の写し等の添付が省略できるなど、市民の皆様にも多くのメリットがありますので、是非、ご登録をお願いいたします。

今後も、国や県の動向を踏まえつつ、市民生活の安定と地域経済の持続的な発展に努めてまいります。

(3)物価高騰等の影響を受ける事業者支援について

エネルギー価格のみならず、原材料費等の物価高騰の影響を受けている事業者に対して、国の交付金を活用し、様々な支援を実施してまいりました。

市内中小企業者等を対象とした「エネルギー価格高騰対策支援事業」では、当初見込みとほぼ同数の1,294事業者に対して、7,332万9,000円の補助金を交付いたしました。

福祉分野においても、市内介護保険施設を対象とした「介護保険施設物価高騰対策事業」並びに障害者支援施設を対象とした「障害者支援施設物価高騰対策事業」を実施いたしました。介護保険施設では102事業者を対象に1,151万6,000円を、障害者支援施設では32事業所を対象に154万8,000円をそれぞれ交付しております。

加えて、当市の伝統ある「発酵文化」を守るため、市内の酒造業者並びに麴や味噌などを生産する食品製造業者を対象とした

「伝統的産業緊急支援事業」では、該当する全13事業者に対して1,135万5,000円の補助金を交付しております。

エネルギー価格の高止まりや食材料費、原材料米の高騰による影響につきましては、今後も動向を注視し、国の交付金の活用を図るなど市内事業者の負担軽減や経営の安定化に取り組んでまいります。

(4)横手市立体育館について

横手市立体育館建設工事につきましては、屋根や外壁工事が完成し、体育館の外観が見えるようになってまいりました。現在は内装工事を進めており、来年7月のグランドオープンを目指してまいります。

一方、管理運営面においては、開館に向けた指定管理者の公募を現在実施しており、スポーツ施設の管理運営実績や経営体制、施設の運営計画など、多角的な視点から指定管理者を選定する準備を進めております。

なお、来年6月には市民の皆様による見学会や体験会などを含めたオープニングセレモニーを開催し、7月のグランドオープンを迎える予定であります。グランドオープン後は、多様な実施主体によるイベントや興行、スポーツ大会等をオープニングイベントとし

て開催できるよう調整を進めており、ソフト・ハード両面において、開館に向けた準備を着実に進めてまいります。

(5)横手駅周辺整備について

横手駅東口第二地区市街地再開発事業につきましては、令和8年2月の立体駐車場の仮使用開始に向け、融雪設備やエレベーターの設置など最終段階の工事に着手しております。また、賃貸マンションと分譲マンションについては、低層階の躯体コンクリート工事を施工しており、令和9年1月の完成に向け、工事は順調に進んでいると伺っております。

さらに、市街地再開発事業と並行して進めております都市再生整備事業につきましても、引き続き再開発区域周辺の歩道整備等を実施してまいります。

(6)シン・十文字拠点基本構想について

シン・十文字拠点基本構想につきましては、10月31日に第4回基本構想策定委員会を開催し、当該エリアの名称を「シン・十文字拠点エリア」と決定したほか、将来像や必要な機能、基本構想の素案について協議を行いました。

現時点では、「子育て世代を中心に多世代が集まる憩いの場を

核とした賑わい交流拠点」を基本コンセプトに据え、エリアに必要な機能として、子育てや交流、防災、スポーツ、学習、産業振興などの要素を中心に検討を進めております。

今後は、基本構想のパブリックコメントを実施するなど、幅広いご意見をいただきながら、市民の皆様に喜ばれる、多世代が集い楽しめる拠点となるよう進めてまいります。

(7)十文字西スポーツセンターリニューアルオープンについて

本年5月に着工いたしました十文字西スポーツ交流センターの改修工事につきましては、間もなく完成する見込みであります。

今回の改修工事は、市内唯一の人工芝屋内運動場へのリニューアルであり、既存の床面の上に人工芝を敷設する工事や防球ネットの設置工事、照明のLED化工事などを実施しております。

改修により、フットサルやテニス、ゲートボール、グラウンドゴルフの日々の練習のみならず、試合にもご利用いただけるようになります。また、硬式球の利用には制限を設けておりますが、野球の練習も可能となります。

特に屋外スポーツにおいて、これまで困難だった夜間や冬期間の活動が可能となることから、市民の皆様の健康増進や競技力向上にも寄与するものと考えております。

改修にあわせ、名称も「十文字西スポーツセンター」に変更し、多くの皆様にご利用いただけるよう、年明け1月中旬のリニューアルオープンに向けて準備を進めてまいります。

(8)公共温泉施設の廃止について

市へ返還後、営業を取り止めております「えがおの丘」につきましては、調査の結果、仮に営業を再開する場合に必要な改修工事費が判明し、施設の営業においてもさらなるコストを要することが明らかとなったほか、建設から30年が経過し老朽化が相当程度進んでいること、さらに近接地に民間の温泉施設があること等の理由により、施設そのものを廃止することといたしました。ご利用されていた皆様には誠に申し訳ございませんが、ご理解くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、「ゆとりおん大雄」につきましては、再度のご説明となりますが、昨年度に実施した、譲渡に関する公募に対し、民間事業者からの応募がございませんでしたので、令和8年3月をもって施設を廃止させていただきます。廃止後の地域の活力や元気につながる新たな地域活性化策について、大雄庁舎周辺施設再配置検討委員会から、新たに建設をする交流施設の内容や、「大雄農業者トレーニングセンター」に代わる新たな体育施設など、様々なご意見を

頂戴しており、今後も地域の皆様と協議を重ねながら進めてまいります。

3. 新たな施策等への取り組みについて

(1) 令和8年度予算編成方針について

令和8年度は第3次横手市総合計画前期基本計画の初年度となり、新たな将来像である「時代を受け継ぎ 磨き上げ 凛々しく羽ばたくまち よこて」の実現に向けて、市民や事業者、当市に関わる全ての方が一体となったまちづくりを目指し、政策・施策を展開してまいります。

特に重点的に取り組む事項といたしましては、毎年のように発生している大雨被害や、豪雪地帯特有の大雪被害などの自然災害に強いまちづくり、身近な生活インフラの老朽化対策といった喫緊の課題への継続的な取り組みに加え、成果重視の予算編成を進めるよう指示したところであります。

来年度の歳入につきましては、市税収入において、今年度産米の概算金が高単価であったこと等による増加を見込んでおります。なお、地方交付税においても、国税収入の伸び等により増加となる見込みであります。

歳出につきましては、柳田工業団地整備事業、ペットボトル等

処理施設整備事業の継続実施、人事院勧告等を踏まえた人件費の増、近年の大型事業における地方債の借入や金利の上昇による公債費の増など、多額の一般財源を要する事業が見込まれております。このため、財政調整基金をはじめとする各種基金や、国・県の施策の活用により、必要な財源を確保してまいります。

さらに、今年度実施した行政評価及び施策優先度評価の結果並びにまちづくりアンケートの結果を踏まえ、事業の優先順位付けと既存事業の見直しを徹底し、限られた経営資源を効果的に配分することで、市民満足度と地域価値の向上につながる施策を展開してまいります。

(2)第3次横手市総合計画前期基本計画と組織機構再編について

令和8年度からスタートする「第3次横手市総合計画」につきましても、本年6月定例会において、10年間のまちづくりの基本ビジョンとなる基本構想を議決いただき、将来像を「時代を受け継ぎ 磨き上げ 凛々しく羽ばたくまち よこて」と定めたところであります。

現在は、この将来像の実現に向け、前期5年の基本計画について策定を進めており、素案の作成にあたっては、昨年度に引き続き、公募委員や関係団体、市の課長級職員で構成する「総合計画策定委

員会」で検討を行い、附属機関である「総合計画審議会」において審議いただいております。

今後、議員の皆様へ基本計画案をお示しし、課題認識や取り組みなどについて意見交換をお願いするとともに、市民の皆様からも、パブリックコメントを通じてご意見をお寄せいただく予定としておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、市が抱える問題や課題に対し、効率的かつ効果的に組織として対応することで基本計画を着実に推進し、それぞれの政策による効果を最大限に発揮できるよう、組織機構の改革についても検討を進めております。

国においては、フロントヤード改革の一環として、自治体情報システムの標準化に向けた取り組みを進めており、今年度末には基幹業務システムがクラウドへ移行することとなります。当市でも、令和8年度には「書かない窓口」の導入など窓口DX SaaSの運用を予定していることから、関連部署の窓口を中心とした体制の整備も検討しております。

こうした動きを見据え、多様化する市民サービスにきめ細かく対応するためのマネジメント体制の構築を目的として、令和8年4月1日から「市民福祉部」を「市民生活部」と「健康福祉部」の2部体制とすることを計画しております。

今後も市民の皆様の期待に応えるべく、横手市の将来像を描く総合計画を確実に実現するため、組織機構の不断の見直しに取り組んでまいりますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

4. 補正予算について

今議会に提案しております一般会計補正予算についてご説明申し上げます。

補正額は、3億2,510万円の増額で、補正後の歳入歳出予算総額は、618億2,460万円であります。主な事業と事業費を申し上げますと、

- | | |
|------------------|---------|
| ◎ 若者出会い・結婚生活応援事業 | 1,330万円 |
| ◎ 有害鳥獣対策事業 | 146万円 |
| ◎ 競技スポーツパワーアップ事業 | 250万円 |
| ◎ 学校給食事業 | 3,246万円 |

などであります。

5. おわりに

今議会に提案しております案件については、報告案件1件、同意案件2件、条例案件13件、契約関係、財産取得、財産無償貸付、指定管理者の指定などその他案件11件、令和7年度一般会計補正

予算案など補正議案 5 件の合計 3 2 件であります。

以上、よろしくご審議くださいますようお願い申し上げまして、
所信説明といたします。

行政一般報告編

～ 9月議会定例会以降の行事等について ～

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

目 次

(1)市制施行20周年・まんが美術館開館30周年記念式典.....	23
(2)まんが美術館開館30周年記念イベント.....	23
(3)旧片野家住宅「庭園蚤の市」.....	23
(4)東京かまくら会総会.....	24
(5)第101回増田の花火.....	24
(6)第17回増田「蔵の日」.....	24
(7)第60回真人公園りんごまつり.....	25
(8)第40回首都圏増田会総会.....	25
(9)浅舞八幡神社祭典.....	25
(10)福祉健康まつり.....	26
(11)東京平鹿町会総会並びに交流会.....	26
(12)平鹿りんご味覚まつり.....	26
(13)第53回雄物川芸術文化祭.....	27
(14)健康の丘おおもりまつり.....	27
(15)「東京都大田区大森」との交流.....	27
(16)第44回猩々まつり.....	28
(17)十文字秋の収穫感謝祭2025.....	28
(18)第37回いものこまつりin鶴ヶ池.....	29
(19)第1回やまばと文化祭.....	29
(20)第38回さんない古里会総会.....	30
(21)「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in よこて.....	30
(22)横手盆地発酵交換会2025.....	31
(23)市制施行20周年記念イベント「全力！よこて祭り」.....	31
(24)横手やきそばフェスティバル2025.....	32

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

(25) 第57回よこて菊まつり	32
(26) よこてfunストア「リトルよこて」	32
(27) 第3回雄物川郷土資料館特別展	33
(28) 旧片野家住宅 秋の一般公開	33
(29) Ao-na開館1周年記念イベント	33
(30) 鹿島茂氏講演会	34
(31) リト@葉っぱ切り絵ミニ展示&トークイベント	34
(32) 第19回横手市民ステージ祭・令和7年度横手市交流美術展	34
(33) 天皇賜杯第80回全日本軟式野球大会 ENEOSトーナメント	35
(34) 第10回よこてシティーフマラソン	35
(35) 第65回奥羽横断駅伝競走大会	35

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
<p>総務企画部 (総務課・横手の未来ともにつくる課)</p>	<p>(1)市制施行20周年・まんが美術館開館30周年記念式典</p> <p>10月4日、市制施行20周年とまんが美術館開館30周年を記念する式典を、横手市民会館で開催しました。当日は、表彰や記念講演を行い、来賓や市民など約400人に出席いただきました。</p> <p>第1部では、市表彰条例に基づく表彰のほか、市技能功労者及び優良技能者表彰を行いました。さらに、市に寄附や寄贈をいただいた方々へ感謝状を贈りました。また、まんが美術館に全原画を収蔵いただいている大規模収蔵作家と、ご逝去された作家の作品を受け継がれた方々に対し、原画収蔵を通じて横手市のマンガ文化の発展や醸成に多大なご貢献をいただいたことへの感謝状を贈りました。</p> <p>第2部では、マンガ家の里中満智子さんによる記念講演が行われ、市の20年間の歩みを映像で振り返りました。フィナーレでは、会場全体で市民歌を斉唱し、式典を締めくくりました。</p> <p>式典終了後に開催した記念祝賀会には約130人が出席し、それぞれの節目を祝い合うとともに、この先も未来に向かって凛々しく羽ばたくことを誓い合いました。</p>
<p>まちづくり推進部 (横手の未来ともにつくる課)</p>	<p>(2)まんが美術館開館30周年記念イベント</p> <p>横手市増田まんが美術館開館30周年記念イベントとして、10月25日に東村アキコさんによる「トーク&チェキ撮影会」を、翌26日には浦沢直樹さんによる「ペンとギターで描く唯一無二の音楽×ドローイングライブ」を開催しました。さらに同26日には、まんが美術館だけでなく増田の町並みにも会場を広げ、高橋よしひろさん、倉田よしみさん、村上もとかさんによる「マンガご朱印サインラリー」を実施しました。いずれのイベントにも、県内外から多くのマンガファンにご来場いただきました。</p>
<p>まちづくり推進部 (横手の未来ともにつくる課)</p>	<p>(3)旧片野家住宅「庭園蚤の市」</p> <p>10月26日、旧片野家住宅において「庭園蚤の市」を開催しました。このイベントは、旧片野家住宅の活用を検討するトライアル事業として実施したものです。</p> <p>当日はあいにくの雨模様でしたが、県内外から古道具、植物、お菓子などを販売する16店舗が出店し、一点物のビンテージ家具や雑貨などを求める約900人の来場者で大いに賑わいました。</p>

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
まちづくり推進部 (横手地域局)	<p>(4)東京かまくら会総会</p> <p>9月13日、東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷にて、「令和7年度東京かまくら会総会」が開催されました。</p> <p>当日は、会員や来賓、市関係者103名が出席し、盛大な会となり、総会に続くミニコンサートでは、美しい歌声とチェロ・ピアノの演奏に会場が感動に包まれました。その後の懇親会では、一転して賑やかな雰囲気となり、再会を喜び合いながら、市制施行20周年を迎えた故郷について語り合う姿が見られました。</p> <p>また、会場内に設けられた「昭和の地図展示コーナー」では、昭和36年と昭和56年の住宅地図を広げながら昔話に花を咲かせる様子が見られ、「物産販売コーナー」では出席者が品定めをしながら懐かしい味を買い求めていました。</p> <p>最後は、会場全体で「青い山脈」を合唱し、来年の再会を誓い合いました。</p>
まちづくり推進部 (増田地域局)	<p>(5)第101回増田の花火</p> <p>9月14日、大正時代から受け継がれ、県内随一の開催数を誇る「第101回増田の花火」が、一般社団法人増田町観光協会の主催により開催されました。</p> <p>当日は天候にも恵まれ、県内外から訪れた約45,000人の観衆が、夜空を彩る花火に魅了されました。</p>
まちづくり推進部 (増田地域局)	<p>(6)第17回増田「蔵の日」</p> <p>10月5日、第17回増田「蔵の日」が開催され、県内外から多くの来場者で賑わいました。24棟の建造物の公開に加え、福嶋サイサイ囃子や増田の盆踊り、増田の梵天など、地域の伝統文化が披露されました。さらに、朝市感謝祭や増田のじまん市も賑わい、増田中学校の特設ブースでは、生徒が考案した特産品の試食や販売も行いました。</p> <p>また、来場者に地域を散策しながら増田の魅力をより深く知ってもらえるよう、地域住民参加型の経済活性化イベント「蔵の日プラス」も実施され、地域一体となって来場者をもてなしました。</p>

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
<p>まちづくり推進部 (増田地域局)</p>	<p>(7)第60回真人公園りんごまつり</p> <p>10月26日、「第60回真人公園りんごまつり」が、一般社団法人増田町観光協会の主催で開催されました。メインイベントのミスりんごコンテストには、3名が「第60代ミスりんご」に選ばれました。</p> <p>会場には約220人が来場し、リンゴの唄コンクールやりんご皮むき競争、りんごウルトラクイズなど多彩な催しが行われたほか、旬のりんごの即売会等も実施されました。</p> <p>さらに、市制施行20周年記念真人公園さくら植樹祭も同協会の主催で行われ、多くの関係者に加え、増田中学校の生徒や新成人の代表が参加し、20本のさくらを植樹しました。</p>
<p>まちづくり推進部 (増田地域局)</p>	<p>(8)第40回首都圏増田会総会</p> <p>11月16日、「第40回首都圏増田会総会」が東京上野の会場で、約120人の参加により開催されました。</p> <p>今年は会の設立40周年にあたり、ふるさと交流会では、増田盆踊り保存会の会員による盆踊りの披露のほか、ジャズバンドの演奏や地元特産品が当たるビンゴゲームなどで大いに盛り上がりました。</p> <p>会員同士で、地元増田の郷土料理や地酒、漬物などを味わい、物産品コーナーでは、ふるさとのお土産や食材を買い求めていました。</p> <p>また、久しぶりに再開した同郷の方々とは、時に方言を交えながら語り合い、故郷の増田に思いを馳せるなかで、楽しい笑い声が会場内に響き渡りました。</p>
<p>まちづくり推進部 (平鹿地域局)</p>	<p>(9)浅舞八幡神社祭典</p> <p>9月13日、14日の2日間にわたり、浅舞八幡神社祭典が開催されました。13日の宵祭りでは、旧平鹿地域局前の目抜き通りに、勇壮な武者人形を築山に配し、絢爛豪華に飾られた「飾り山車」6台が集結しました。笛や太鼓のお囃子と山車の競演により、訪れた約2,700人の来場者で大いに賑わいました。</p> <p>また、旧平鹿地域局跡地の手作り屋台村では、地元商店、街商が出店し、祭りを盛り上げました。フィナーレには約800発の色鮮やかな花火が打ち上げられ、秋の伝統行事に華を添えました。</p> <p>今後も、各町内と連携を図りながら、地域に誇れる祭りとして伝承に努めてまいります。</p>

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
まちづくり推進部 (平鹿地域局)	<p>(10)福祉健康まつり</p> <p>10月21日、平鹿町ゆとり館において「福祉健康まつり」を開催しました。この催しは、地域住民の福祉や健康に対する意識の向上を目的として毎年開催しているもので、当日は約200人の来館者で賑わいました。</p> <p>会場では、保健師による健康チェックや健康相談、栄養士と横手市食生活改善推進員の協力による健康料理の試食やレシピ紹介のほか、結核予防婦人会による啓発活動も行い、ご家族や自身の健康について関心を高めていただく機会となりました。</p> <p>また、浴場の無料開放やアトラクションも行われ、多くの方々に楽しんでいただきました。</p>
まちづくり推進部 (平鹿地域局)	<p>(11)東京平鹿町会総会並びに交流会</p> <p>11月2日、東京都荒川区の「アートホテル日暮里ラングウッド」において、第51回東京平鹿町会総会並びに交流会が開催されました。当日は来賓や会員約80名が出席し、地酒や懐かしいふるさとの味を堪能しながら、地場産品が当たる抽選や歌などの余興を通じて、会員同士の交流を深めました。</p> <p>会場内に設置された「ふるさと物産コーナー」では、地酒や漬物、昆布などが販売され、会員たちは懐かしいふるさとの品々を数多く買い求めていました。</p> <p>今後も東京平鹿町会と連携を図りながら、地域を大いに盛り上げてもらえるよう交流を深めてまいります。</p>
まちづくり推進部 (平鹿地域局)	<p>(12)平鹿りんご味覚まつり</p> <p>11月3日、「第24回平鹿りんご味覚まつり」が、ときめき交流センターゆっふる駐車場を会場に開催されました。</p> <p>このイベントは、平鹿りんごを県内外にPRし、産直による消費拡大を図ることを目的に、関係自治会、JA秋田ふるさと、県平鹿地域振興局の協力により開催しています。</p> <p>会場では、季節の果物を中心とした農産物直売や、りんごのもぎ取り体験が行われ、多くの来場者が平鹿りんごの魅力を存分に味わいました。</p>

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
まちづくり推進部 (雄物川地域局)	<p>(13)第53回雄物川芸術文化祭</p> <p>10月25日、26日の2日間、雄物川コミュニティセンターを会場に「第53回雄物川芸術文化祭」が開催されました。</p> <p>雄物川芸術文化協会の主催で行われ、同協会所属団体のほか、地域住民の作品を含む67点が展示されました。</p> <p>26日の芸術発表では、4団体19名が出演し、日頃の成果を披露しました。また、特別出演として雄物川高校吹奏楽部による演奏も行われ、多くの観客を魅了しました。</p>
まちづくり推進部 (大森地域局)	<p>(14)健康の丘おおもりまつり</p> <p>9月27日、市立大森病院、高齢者等保健福祉センター、秋田県南部老人福祉総合エリアを会場に、市制施行20周年記念事業として「健康の丘おおもりまつり」が開催されました。</p> <p>この催しは、地域包括ケアの拠点である健康の丘おおもりを構成する施設を中心に、地域住民と健康について学びながら、楽しい時間を過ごしていただくことを目的としています。</p> <p>当日は、大森病院長による健康講演をはじめ、季節のフルーツや大森産ぶどうのワインなどの特産品が多数当たる大抽選会、川西保育園園児や横手明峰中学校吹奏楽部によるステージイベントなどが行われ、子どもからお年寄りまで幅広い世代に楽しんでいただきました。</p> <p>また、管理栄養士による低栄養予防の講話、食生活改善推進協議会による健康料理の試食、結核予防婦人会による啓発活動なども行われ、ご自身やご家族の健康について関心を高めていただく機会となりました。</p>
まちづくり推進部 (大森地域局)	<p>(15)「東京都大田区大森」との交流</p> <p>11月1日、2日の2日間、東京都大田区のふるさとの浜辺公園にて「OTAふれあいフェスタ2025」が開催されました。会場では、良質な「秋田・大森産農産物」のPRを行うとともに、大森町共栄会事務局との交流を深めることができました。販売会では、新鮮な野菜や新米などを買い求める多くの来場者でにぎわい、販売開始前から行列ができるほどの盛況ぶりとなりました。</p>

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
まちづくり推進部 (十文字地域局)	<p>(16)第44回猩々まつり</p> <p>9月20日、十文字庁舎駐車場を会場に「第44回猩々まつり」が開催されました。あいにくの雨と強風に見舞われましたが、ステージイベント、飲食・縁日コーナー、お楽しみ抽選会、麺&お菓子まきなど、多彩な催しが行われました。</p> <p>今回は市制施行20周年を記念し、十文字中学校の生徒が、伝統を受け継ぎつつ新たな感性を取り入れた「ニュー猩々おどり」を披露し、会場ボランティアとしても活躍しました。また、長年「猩々まつり」を見守ってきた「猩々像」のお色直しも行われました。</p> <p>悪天候の影響で来場者数は約2,500人と例年より少なめでしたが、実行委員会スタッフなどの臨機応変な対応により、事故もなく無事に終了しました。</p>
まちづくり推進部 (十文字地域局)	<p>(17)十文字秋の収穫感謝祭2025</p> <p>11月8日から9日の2日間、「道の駅十文字」を会場に「十文字秋の収穫感謝祭2025」が開催され、約5,500人が来場しました。</p> <p>会場では、キッチンカー屋台村・縁日、豚汁の無料振る舞い、各テナントによる特別サービスなどが行われました。フィナーレには、十文字のイベントでは定番となった「麺まき・餅まき」も行われ、会場は大いに盛り上がりました。</p> <p>また、9日には「第12回十文字よさこいフェス」も同時開催され、県内各地から参加した15チームのよさこい団体による迫力ある演舞が披露され、観客を魅了しました。このイベントを通して、多くの皆様に十文字の秋の魅力を広くPRすることができました。</p>

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
まちづくり推進部 (山内地域局)	<p>(18)第37回いものこまつりin鶴ヶ池</p> <p>9月21日、山内地域の活性化と産業振興を目的に、「第37回いものこまつりin鶴ヶ池」が鶴ヶ池公園で開催しました。オープニング時には小雨に見舞われたものの、その後はさわやかな秋晴れに恵まれ、県内外から約18,000人が来場しました。</p> <p>当日は、「いものこ」をはじめとする特産品の販売のほか、名物の「いものこ汁」は、用意した2,500食が14時頃に完売するなど、来場者に山内の秋の味覚を堪能していただきました。</p> <p>また、JR北上線の利用促進を図るため、鉄路を利用して来場した50人には特典を配付しました。全国いものこピラミッド競技大会には、市内外から35組が出場し熱戦が繰り広げられたほか、市制施行20周年記念とタイアップしたステージイベントなど、多彩な催しが会場を盛り上げました。</p> <p>さらに、昨年引き続き、横手南中学校の生徒13人がボランティアとして参加いただき、祭りの運営を支えました。</p> <p>イベントのフィナーレを飾った花火ショーでは、鶴ヶ池の水面を彩る迫力満点の水中花火やスターマインなど、約2,300発の花火が打ち上げられ、山内の魅力を存分に味わえる1日となりました。</p>
まちづくり推進部 (山内地域局)	<p>(19)第1回やまばと文化祭</p> <p>10月25日から26日まで、山内小学校を会場に「第1回やまばと文化祭」を開催し、約474名の方々にご来場いただきました。本文化祭は、令和6年度からコミュニティ・スクールの一環として、小学校の学習発表会と地域の文化祭を合同で実施してきたものを、今年度はより一体的なイベントとして融合させ、「やまばと文化祭」と名称を統一して開催したものです。</p> <p>当日は、山内小学校の学習発表会を皮切りに、文化祭の芸能発表が行われ、児童77名と一般8団体41名が日頃の成果を披露し、観客から盛大な拍手が送られました。特に「豊かなる山河（山内村民歌）」を観客とともに全員で合唱した場面では、会場全体が大きな一体感に包まれました。</p> <p>展示部門では、園児・児童による267点、一般からの174点、合計441点の作品が出展されました。さらに、横手南中学校の生徒による72点の作品や横手市出身の高橋敏子氏による絵画コーナーも設置され、大変好評を博しました。</p> <p>学校と地域が協働して実施することで、一層の連携と交流を深める貴重な機会となりました。</p>

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
<p>まちづくり推進部 (山内地域局)</p>	<p>(20)第38回さんない古里会総会</p> <p>11月3日、「第38回さんない古里会総会」が東京都内で開催され、80名が参加しました。</p> <p>参加者は久しぶりの再会とあって、故郷・山内の思い出や近況などを大いに語り合いました。会場内では、地域の特産品や県内の名産品を販売する「ふるさと物産展」も開かれ、懐かしい味を買い求める会員で賑わいました。</p> <p>総会には、山内区長会などから7名が参加し、会員との交流を深めました。さらに、懇親会のアトラクションでは横手市在住の越後谷利秋さんによるギター弾き語りでのフォークソングが披露されるなど会場は大いに盛り上がりました。最後は次回の再会を誓い合い、盛況のうちに幕を閉じました。</p>
<p>市民福祉部 (子育て支援課)</p>	<p>(21)「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in よこて</p> <p>10月5日、横手市生涯学習館Ao-naにおいて、「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in よこてを開催しました。</p> <p>本シンポジウムは、こどもや子育て世代にやさしい社会づくりの広がりを目指し、「地域社会全体のパートナーシップによる子育て(共育ち)」をテーマに実施したもので、子育て世代や子育て関係者など83人が参加しました。</p> <p>基調講演では、「こどもを社会のまんなかに」と題し、こども家庭庁職員による講演のほか、沖縄県在住で12児の母でもある助産師YouTuberのHISAKO氏と、その夫であるMARK氏による子育て講演を行いました。親しみやすい語り口と確かな専門性を交えながら、「育児は決して一人で背負うものではない」というメッセージを発信しました。</p> <p>また、パネルディスカッションでは、こども家庭庁職員や子育て世代の代表者に加え、高校生2名がパネリストとして登壇し、こどもまんなか社会に関する意見交換を行いました。さらに、17年ぶりに改定した「横手市こどもの権利宣言」の発表も行いました。</p>

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
<p>農林部 (食農推進課)</p>	<p>(22)横手盆地発酵交換会2025</p> <p>9月6日と7日の2日間、Y² ぷらざとよこてイーストにぎわいひろばを主会場に「横手盆地発酵交換会2025」を開催しました。</p> <p>本イベントは、横手盆地に共通する発酵食文化の魅力を発信し、発酵文化圏としての認知度を高めることを目的に、実行委員会との共催により開催したものです。</p> <p>期間中、Y²ぷらざでは、仙北・平鹿・雄勝の各地域の発酵関連事業者11社による物産販売を行い、にぎわいひろばでは、発酵グルメ屋台として10社が発酵食品や地ビールなどを販売しました。</p> <p>また、9月6日には横手市生涯学習館Ao-naのスタジオを会場に、小泉武夫先生の講演会や、横手盆地の食の豊かさ・奥深さをテーマとしたパネルディスカッションを開催しました。</p> <p>さらに、「全力！よこて祭り」との同時開催により集客面でも一定の効果が見られ、会場を訪れた約12,000人の皆様に、こうじ文化が息づく横手盆地の発酵食の魅力を感じていただくことができました。</p>
<p>商工観光部 (観光おもてなし課・横手の魅力営業課)</p>	<p>(23)市制施行20周年記念イベント「全力！よこて祭り」</p> <p>9月6日、7日の2日間、横手駅周辺を会場に「全力！よこて祭り」が開催され、スタッフ・出演者・来場者を含め、延べ71,000人に参加いただきました。</p> <p>当日は、イベントのサブタイトル「伝統×革新、つなぐ横手の未来、希望をカタチに」に相応しく、伝統行事の競演や市内中学生が企画・運営したステージイベント、のど自慢大会など、市民が一体となった多彩な催しが行われました。このほか、こどもたちのお仕事体験や市内のグルメ・物産の販売、サタデーナイトパーティー、横手駅開業120周年企画展示なども行われました。</p> <p>また、フィナーレでは、イベントテーマソングであるシンガーソングライター高橋優さんの『明日はきっといい日になる』を参加者全員で大合唱し、メイン会場の横手駅東口周辺には、明るい未来を信じる歌声が響き渡りました。2日間を通じ、多くの市民の皆様がふるさとの素晴らしさや温かさを再認識し、『横手愛』を一層深める機会となりました。</p>

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
商工観光部 (観光おもてなし課)	<p>(24)横手やきそばフェスティバル2025</p> <p>9月27日、28日の2日間、横手やきそばの食文化を未来へ継承することを目的に、秋田ふるさと村を会場として参加型イベント「横手やきそばフェスティバル2025」が開催され、約8,000人が来場しました。</p> <p>当日は、秋田大学、平成高校の学生など約70人がボランティアとして参加し、イベント運営に協力いただきました。</p> <p>さらに、市内の横手やきそば5店舗が出店し、自慢の横手やきそばの食べ比べ、一般公募で集まった「横手やきそばのアレンジレシピ」の販売や、やきそば作り体験などが実施され、横手やきそばの魅力を広く発信する2日間となりました。</p>
商工観光部 (観光おもてなし課)	<p>(25)第57回よこて菊まつり</p> <p>第57回よこて菊まつりが10月31日から11月10日までの11日間、秋田ふるさと村を会場に開催され、約25,000人が来場しました。</p> <p>会場内では約1,000鉢の菊花が展示されたほか、「全国各地の武将隊が参加しての武将隊フェスティバル」や「横手市民謡連合会による民謡披露」、「秋田まるごと食の祭典2025」などが行われ、来場者を楽しませました。</p>
商工観光部 (横手の魅力営業課)	<p>(26)よこてfunストア「リトルよこて」</p> <p>9月30日から10月5日までの6日間、東京都葛飾区新小岩ルミエール商店街を会場に、また、11月7日から9日までの3日間、仙台駅の東西自由通路において、横手の魅力を発信する物産展「リトルよこて」を開催しました。</p> <p>開催期間中は、横手の旬の食材や食文化にちなんだ商品をはじめ、横手を感じられるよう会場を装飾したほか、横手の伝統工芸である十文字和紙を利用したリースづくり体験、秋田弁での会話などを通じて、ふるさと会の会員などをはじめ多くの皆様に横手の魅力を存分に味わっていただきました。</p> <p>また、開催にあたり、よこてfun通信を通じて募集した33名のボランティアの皆様に運営をご協力いただき、読者同士の交流を深める機会にもなりました。</p>

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
教育総務部 (伝統文化課)	<p>(27)第3回雄物川郷土資料館特別展</p> <p>雄物川郷土資料館では、8月9日から市制施行20周年記念事業「横手のタカラ 横手市の指定文化財、揃い踏み。」を開催しています。これまで公開の機会がなかった指定文化財や、各地域の文化財保護協会から推薦された文化財を一斉に公開しています。</p> <p>10月11日には、平鹿、雄物川、大森地域の文化財保護協会の方々によるギャラリートークが行われ、25人が参加しました。この特別展は好評につき、会期を2月1日まで延長します。</p>
教育総務部 (伝統文化課)	<p>(28)旧片野家住宅 秋の一般公開</p> <p>10月25日、旧片野家住宅の一般公開を行いました。例年実施している建物公開に合わせて、横手城下を描いた市指定文化財の展示や、横手の民俗行事を紹介するデジタル映像の放映を行いました。さらに、絵図の展示に合わせて、江戸時代に整えられた横手城下の町並みをたどる「まちあるき」も実施し、当日は180人の来場がありました。</p>
教育総務部 (生涯学習課・ 伝統文化課・ 図書館課)	<p>(29)Ao-na開館1周年記念イベント</p> <p>9月13日から15日の3日間、横手市生涯学習館Ao-naにて、開館1周年記念イベントを開催しました。</p> <p>期間中は、雄物川地域の蝦夷塚古墳群から出土し、京都国立博物館に所蔵されている勾玉の里帰り特別展示を行いました。9月13日には、青山学院大学教授による出前講座や勾玉ワークショップを行い、14日には、タレントの壇蜜さんを招き、開館1周年記念セレモニーや朗読会を行い、市民との交流を深めました。</p> <p>さらに、15日には、中高生のAo-na学生ボランティア主催による「Ao-naフェス」が行われ、音楽イベントや本の帯づくり、バッジづくりなどで大いに賑わいました。</p> <p>3日間で延べ5,318人が来館し、幅広い世代の方々に多様な学びに触れていただくとともに、地域の魅力を再発見する機会となりました。</p>

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
教育総務部 (図書館課・生涯学習課)	<p>(30)鹿島茂氏講演会</p> <p>11月1日、横手市生涯学習館Aonaにて、Aona開館1周年と株式会社白水社創立110周年を記念し、作家でフランス文学者の鹿島茂氏による講演会を開催し、約90人が参加しました。</p> <p>1915年に設立された株式会社白水社の創業者は、平鹿郡深井村(現・横手市雄物川町)出身の故・福岡易之助氏で、日本で初めて仏和大辞典を出版し、フランス政府から最高位のレジオンドヌール勲章を受章しました。</p> <p>当日は、フランス文学の普及に努めた福岡氏の功績に思いを馳せるひとときとなりました。</p>
教育総務部 (生涯学習課・図書館課)	<p>(31)リト@葉っぱ切り絵ミニ展示&トークイベント</p> <p>9月27日から10月5日まで、横手市生涯学習館Aonaにて、葉っぱ切り絵アーティスト・リトさんの作品のミニ展示を開催しました。</p> <p>この展示は、発達障がいによる特徴を活かしたリトさんの作品を通じて、多様な個性が尊重され、共に学び合う社会について考える機会とすることを目的に開催したものです。</p> <p>また、10月4日にはリトさんご本人を招いたトークイベントを行い、140人が参加しました。小さな一枚の葉っぱに描かれる心温まる世界の制作秘話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。</p>
教育総務部 (生涯学習課)	<p>(32)第19回横手市民ステージ祭・令和7年度横手市交流美術展</p> <p>11月8日と9日の両日、横手市民会館にて、第19回横手市民ステージ祭・令和7年度横手市交流美術展を開催しました。</p> <p>横手市民ステージ祭では、日本舞踊や合唱など、26団体が日頃の練習の成果を披露しました。</p> <p>横手市交流美術展では、絵画や書道など110点の作品を展示しました。今回の新たな取り組みとして、障がいの生涯学習を推進することを目的に、横手市障がい者基幹相談支援センター、横手市社会福祉協議会、秋田県立横手支援学校の協力をいただき、障がいの作品も展示しました。</p> <p>さらに特別企画として、お茶席の体験や超大筆を用いた「大字体験会」を実施しました。2日間で延べ850人が来場し、芸術の秋を楽しみました。</p>

令和7年9月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
教育総務部 (スポーツ振興課)	(33)天皇賜杯第80回全日本軟式野球大会 ENEOS トーナメント 9月5日から10日まで、軟式野球界で最も権威ある大会とされる「天皇賜杯第80回全日本軟式野球大会ENEOSトーナメント」が、グリーンスタジアムよこてを主会場に、県内8会場で開催されました。大会には、各都道府県の代表55チームが参加し、秋田県代表として出場した当市の宮腰デジタルシステムズがベスト16に進出しました。
教育総務部 (スポーツ振興課)	(34)第10回よこてシティハーフマラソン 9月28日、市内の特設コースを駆け巡る「第10回よこてシティハーフマラソン」が開催され、過去最多となった前を上回る1,660人がエントリーしました。 第10回の節目を迎えた今大会は、市制施行20周年記念事業の一環として開催されました。ゲストには元プロ野球選手の斎藤佑樹氏を迎え、さらにゲストランナーとして、東洋大学と法政大学の陸上競技部に所属する選手4名をお迎えし、北海道から沖縄まで全国各地から集まったランナーや観客を大いに盛り上げていただきました。
教育総務部 (スポーツ振興課)	(35)第65回奥羽横断駅伝競走大会 10月24日から26日にかけて、国道107号を主たるコースとする「第65回奥羽横断駅伝競走大会」が開催されました。 昨年に続き、由利本荘市役所前をスタートし、横手市を経て西和賀町役場湯田庁舎に至る112.3km、全12区間で健脚を競いました。大会には、県対抗の部に6チーム、一般の部に15チーム、高校の部に3チーム、計24チームが参加し、秋の奥羽路を襷でつなぎました。